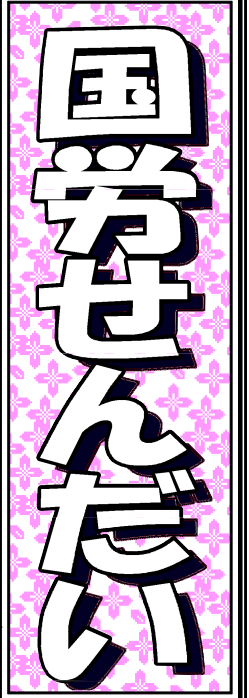


要求あるところに国労在り！



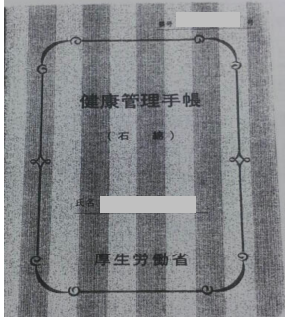
No. 2734
2017年5月20日
発行責任者 大沼 元
編集責任者 武田昌仙

秋田と仙台で協力 健康管理手帳取得をアシスト

アスベスト対策委員会が尽力

国労秋田地方本部と仙台地方本部が連携・協力し、他労組組合員であった方（現在は退職）が、石綿（アスベスト）健康管理手帳を取得した。所属組合の違いはあっても、「労働者の要求があれば協力・努力するのは当然」とする国労の姿勢が健康管理手帳の取得を可能にした。

4月6日、他労組組合員であった方（Fさん）が健康管理手帳を取得した。その経過は、昨年国労秋田地本がアスベスト問題の学習会を開催した際、過去にアスベストの取り扱いを経験していたとして、東労組組合員ではあるが、健康管理手帳の取得に意欲のあるFさんともう一人の東労組組合員と一緒に参加した。学習会では、Fさんはアスベストを最後に取り扱った職場が、利府の仙台工場（現秋田線総合センター）であったため、「健康管理手帳取得の申請は、宮城労働局になると予想される」と学習会に講師として参加していた神奈川労災職業病センターの池田理恵常務理事



健康管理手帳の表紙

担当官からは、一〜二週間で健康管理手帳が自宅に郵送されるとの説明があり、その後4月6日にFさん宅に手帳が送付されてきたと秋田地本から連絡があり、取得の確認が取れた。

今回の取組みは、他労組組合員であるが、国労として取組めたことは、「要求あるところに国労在り」を

事が指摘。持ち帰り検討の結果、申請は宮城労働局であり、仙台地本の力を借りることに。池田氏が事前（3月21日）に宮城労働局と連絡を取り、その後、申請手続きをする。こととし、3月24日、仙台地本中島アスベスト対策委員長と佐藤対策副委員長が、宮城労働局へ申請手続きに向かった。

宮城労働局では、労働基準部健康安全課主任地方労働衛生専門官が対応。池田氏の事前の連絡もあり、手続きは問題なく順調に行われた。

「Fさんは17年2月1日付けでJRを退職したが、他労組組合員にこの取組みを広め、組織拡大につなげていきたい」と地本対策委員会は今後の抱負を述べている。

国労福島県支部エルダー交流会

会社全体を網羅する交流会を

4月17日、国労郡山分連協事務所において、第9回国労福島県支部エルダー交流会が開催された。参加者は、TSSから5人とJテックから3人。また貨物嘱託2人、エルダーOB2人と現職も加わり、総勢15人で行われた。はじめに、菊地尚一幹事（郡山駅連分會・Jテック）より、「9回目を重ねたエルダー交流会も、数多くの仲間たちに支えられ3年目を迎えることができた。エール・現職から多くの声を反映し深度化が図られている」と経過報告がされた。

「元管理者の職場で、人間関係がうまくいかない」「後進に道を」と言われ

討論交流では、「44年特例で退職」「通勤が大変」「2年で退職を考えている」

「二元管理者の職場で、人間関係がうまくいかない」「後進に道を」と言われ



参加された仲間の皆さん

※仙台地本アスベスト対策委員会から

今後の取組みに活かされるものと思っています。また「協力を頂いた関係者の方々に心から感謝いたします。【勝】



デモ行進先頭に立つ主催者代表

「特例で退職うらやましい」「体調が年々悪化する」「55歳以降の人生が不安」「親の介護が大変」等、深刻かつ率直な声が聞かれた。佐々木勝紀幹事代表（福島地区分會・Jテック）は、「全てのパートナー会社の労働条件は劣悪で、P会社

5月3日、宮城県では、宮城県護憲平和センター・憲法を守る市民委員会・宮城憲法会議の三団体が主催する、「5・3憲法を活かす宮城県集會」が仙台国際

センターで開催された。約千人の県民が参加し、国労も宮城県支部と仙総所支部の組合員ら約20人が参加した。集會の講演では、水島朝穂早稲田大学法学学術院教授が、「北朝鮮がミサイルを発射（失敗）した時、東京メトロと北陸新幹線が運行見合わせを行ったが、7分で日本に到達するとされているのに発射後2時間が経過してからの停止。自治体にも避難訓練を求めている。これらは何を意味するのか。米国から武器を買ったこと、さらなる軍事化を進め改憲するための誘導でないか」と疑問を呈した。集會後は市民広場までデモ行進を行い、「憲法9条を世界に広げよう」「戦争する国づくりを止めさせよう」と市民に訴えた。【幸】

「二元管理者の職場で、人間関係がうまくいかない」「後進に道を」と言われ

「特例で退職うらやましい」「体調が年々悪化する」「55歳以降の人生が不安」「親の介護が大変」等、深刻かつ率直な声が聞かれた。佐々木勝紀幹事代表（福島地区分會・Jテック）は、「全てのパートナー会社の労働条件は劣悪で、P会社

4・7	第8回地方執行委員会
4・8	春闘事務局総括会議
4・15	第71回アスベスト対策委員会
4・16	第58回安プロ・第49回支部業長合同会議
4・17	福祉問題学習会・慰労会
4・24	東北交運バス部会
4・25	安全問題を検証する集會（宮城・福島）
5・7	全国代表者会議
5・12	17春闘中間総括会議
5・15	第9回地方執行委員会・中央労働講座
5・20	支社経協・団交（職業務委託等）
5・21	地本電気協議会定期委員会
	地本工作協議会定期委員会
	エルダー・嘱託組合員交流会

国労で終える誇りを胸に



国労運動を支え続けてきた先輩方

地方本部は4月16日〜17日、ホテル松島大観荘において、「福祉問題学習会及び慰労会」を開催し、17年度及び18年度に退職される予定の組合員のうち、55人の方が参加しました。

学習会は地本原子書記長の司会で進行し、国労東日本本部伊藤業務部長から、「エルダー社員・嘱託社員の諸制度」についてのあらましの説明がされました。続いて千葉組織部長からは、エルダー・嘱託社員の組合員継続加入の願いがあり、東北労金からは今後の年金についての詳細な説明がされました。

また交運共済、鉄道退職者の会からもそれぞれ加入の案内がされ、最後に一般財団法人国鉄労働会館仙台地方部の取り組みとして、「JR年金制度の問題点と今後の取り組み」と題した講演が沼下清一氏より行われました。場所を変えての慰労会では、40余年に亘る鉄道人生で苦楽を共にした仲間との語らいが尽きることもなく続いていました。【昌】

- ※参加された皆さん (敬称略・順不同)
- 藤田 香 ○菅原 一夫
- 高橋 真人 ○新屋 昭二
- 吉澤 弘 ○畠山 勉
- 今野 浩 ○角田 直光
- 高橋 寛 ○阿部 仁

- 齋藤 義光 ○高橋 道雄
- 遠藤 義春 ○佐藤 孝雄
- 遠藤 順一 ○山田 芳夫
- 本田 要一 ○菊田 幸治
- 川島 邦彦 ○佐藤 宏明
- 坂 三也 ○千葉 庸逸
- 伊藤 清志 ○鈴木 昌則
- 田口 貞治 ○熊谷 睦男
- 渡辺 歳央 ○若野 伸一
- 大倉 幸広 ○橋本 吉孝
- 阿部 政雄 ○鈴木 幸春
- 渥美 健一 ○小野 孝一
- 熊谷 司 ○青野 恒男
- 柳沼 文夫 ○伊藤 正雄
- 菊地 勉 ○三浦 誠一
- 石田 正幸 ○勝又 賢一
- 八巻 孝夫 ○南幅 清也
- 田沼 光広 ○野崎 文雄
- 伊藤 純 ○後藤 敏郎
- 丹治 覚夫 ○佐藤登喜雄

退職のお知らせ

3月31日付

- 斎藤 喜久男さん (東北工事事務所 (退職))
- 進藤 隆樹さん (山形連合 (テクノ山形))
- 斎藤 積さん (会津若松地区 (テクノ若松))

- 杉山 靖男さん (山形連合 (テクノ山形))
- 神田 正夫さん (会津若松地区 (仙建若松))

- 4月30日付
- 箭内 喜八さん (郡山駅連合 (退職))
- 最上 剛さん (仙台電車区 (Jテック東営業所))
- 島津 隆さん (会津若松地区 (退職))
- 高橋 節夫さん (東北工事事務所 (JRTM幹総))
- 川村 進さん (仙総・車体 (JRTM幹総))
- 菅原 新治さん (仙台保線区 (仙建古川))



「平成探」女性部が集う 職場・生活の声持ち寄り

4月23日〜24日、秋田地本管内、角館温泉において国労東北協議会女性組合員交流会が開催されました。この会合は、前年の協議会総会に参加した代議員からの要請を受けて開催したものです。

盛岡、秋田、仙台の各地方本部に1名ずつ、平成になり国労に加入した女性組合員が一堂に顔を合わせ交流した意義は、今

- 大石 清隆さん (仙・宮運輸区 (Jテック東営業所))
- 小松 知喜さん (仙総・車体 (JRTM幹総))
- 根本 勝さん (郡山駅連合 (退職))
- 長谷川 明男さん (仙台電車区 (Jテック東営業所))
- 小島 和浩さん (貨物宮城 (退職))

沖縄に寄り添う心とは

米軍基地が沖縄でよかった？

▼原発事故について、ついでには地元の意見が尊重されるのに、なぜ米軍基地について沖縄の意思は無視されるのか。

▼二重婚約が発覚した宮崎議員とともに、人間としての資質が疑われる言動をした両名は直ちに議員辞職すべきだが、独裁安倍政権は辞職勧告もせず、自民党二階幹事長に至っては今村議員を擁護し、その矛先をマスコミに向けるなどどこまでも国民を愚弄している。



▼さて、5月4日付朝日新聞の「声」欄で考えさせられた。「なぜ沖縄に寄り添わないのか」と題し投稿された一文を紹介したい。「(震災が)東北でよかった」。多くの人は復興相によるこの発言を、東北を傷つける暴言と受け止めた。安倍晋三首相も「深くおわび」し、更迭した。